

みんなが主役！ 地区防災計画策定マニュアル 《付録：事例集》

地区の防災リーダー・支援者向け



VERY
GOOD
LOCAL
とちぎ

栃木県

はじめに

近年、気候変動などの影響もあり、栃木県においても、令和元年東日本台風や関東・東北豪雨などの大雨のほか竜巻や林野火災など、様々な災害により人的・物的被害を受けています。また、忘れてはならない、平成23(2011)年3月11日の東日本大震災もありました。

大規模災害が起きたときに、警察や消防などの行政の支援(公助)を待つ前に、まずは“自らの命は自らが守る”(自助)行動をとる必要があります。さらに“地域の安全は地域が守る”(共助)行動をとることによって、被害は大きく軽減されることとなります。

また、災害が起きる前の、備えの段階においても、“行政”が発信する情報を適切に“各個人(世帯)”に届けるためには、“地域”の取組が重要となります。

地区防災計画は、災害発生前・発生後における地域の取組をあらかじめ“地域のみんな”で話し合っておくことで、備えの段階や、いざ災害が起きたときに、“地域のみんな”で適切な行動がとれるようにするための計画です。

そして、過去に起きた大規模災害において、地域がどんな行動をとったか、どんな行動をとるべきだったかを計画に反映させることによって、災害を経験していない世代に対しても、地域の災害の教訓を伝承させていくことができます。

県では令和元(2019)年度～2(2020)年度にかけて、地区防災計画策定促進事業(モデル事業)を行い、NPO法人栃木県防災士会及び各市町と連携して、県内24地区において計画策定支援に取り組みました。

本書では、モデル事業の結果を踏まえて、計画づくりを行っていくためのポイントをわかりやすく紹介するほか、実際に計画を策定した24地区の取組の様子を事例集として掲載していますので、地域における防災リーダーの方や地域を支援する立場の方(市町の職員や防災士など)にお読みいただき、地区防災計画策定のための参考としていただければ幸いです。

令和4(2022)年2月

※本冊子の編集にあたり御協力いただきました。

NPO法人栃木県防災士会(稲葉茂理事長)

各市町の地区防災計画担当者・モデル地区のみなさま

宇都宮大学地域デザイン科学部地域プロジェクト演習3班(指導教官：池田裕一教授)

地区防災計画策定マニュアル・事例集

目次

はじめに	1
マニュアル編	
第1講 地区防災計画制度について知ろう	
1-1 地区防災計画とは	3
1-2 計画策定のメリットと効果	4
1-3 制度についてもっとよく知る	5
第2講 地区防災計画策定を担う人材や策定する場を設定しよう	
2-1 策定を担う人材の検討	6
2-2 地域住民の参画や関係団体等との連携	8
2-3 策定を進める場の設定	10
第3講 地区防災計画策定の流れ	
STEP 1 事前準備	11
STEP 2 工程確認	11
STEP 3 骨子作成	13
STEP 4 計画素案作成	14
補講 さまざまな防災訓練・防災ゲーム	16
第4講 地区防災計画の充実に向けて	17
補講 個別避難計画(避難行動要支援者)	18
コーヒープレイク 宇都宮大学生による計画策定のススメ	19
事例集編	
① 宇都宮市瑞穂野地区	⑬ 下野市ダイアパレス地区
② 栃木市寺尾地区	⑭ 上三川町石田地区
③ 佐野市葛生地区	⑮ 益子町新町地区
④ 鹿沼市加蘇地区	⑯ 茂木町深沢上
⑤ 日光市裏見台自治会	⑰ 市貝町古宿下町地区
⑥ 小山市大字間々田自主防災会	⑱ 芳賀町上給自治会
⑦ 真岡市西田井地区	⑲ 壬生町壬生城址地区
⑧ 大田原市西部地区	⑳ 野木町野木区
⑨ 矢板市片岡4区	㉑ 塩谷町芦場新田
⑩ 那須塩原市黒磯七区	㉒ 高根沢町太田地区
⑪ さくら市喜連川中央行政区	㉓ 那須町稲沢沼野井自主防災会
⑫ 那須烏山市向田・落合地区	㉔ 那珂川町室町



マニュアル編

第1講 地区防災計画制度について知ろう

1-1 地区防災計画とは

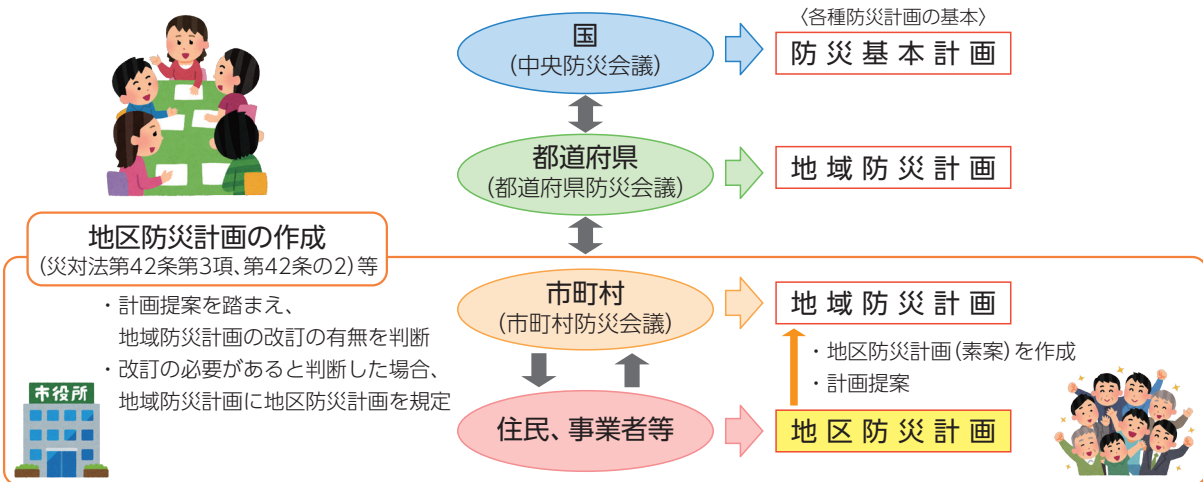
(1) 地区防災計画制度導入の経緯

平成7年の阪神・淡路大震災では、倒壊家屋の下から救出された方のうち、消防や警察などの公的機関によって救出されたのは約2割で、約8割は近隣住民の方によって救出されました。また、平成23年の東日本大震災では、地震・津波によって市町村の行政自身が被害を受けたことから、地域住民による避難活動や避難所運営等の互助・共助の事例が見られました。

これらの経験から、災害対策基本法が改正され、平成26年4月から地区防災計画制度がスタートしました。

災害対策基本法第42条第3項（抜粋）

市町村内の一定の地区内の居住者及び当該地区に事業所を有する事業者（以下この項及び次条において「地区居住者等」という。）が共同して行う防災訓練、地区居住者等による防災活動に必要な物資及び資材の備蓄、災害が発生した場合における地区居住者等の相互の支援その他の当該地区における防災活動に関する計画



内閣府ホームページより

(2) 地区防災計画の意義

栃木県においても、平成23年の東日本大震災や平成27年の関東・東北豪雨、令和元年東日本台風など、県民の生命や財産に甚大な影響を及ぼす大規模災害が発生しています。

地区防災計画は、地域住民等がお互いに支援し合う“共助”のための計画として、地域住民が自由に策定できる計画です。

計画の策定過程を通じて、地域住民等がお互いに顔の見える関係を構築し、いざというときに助け合うことができる“防災”にとどまらず、“まちづくり”にも寄与することができます。

また、市町にとっては、災害時に各地区の現場で避難行動や避難生活をどのように行っているかをあらかじめ把握することができるため、地域防災計画(※)における公助の支援内容をどうするか明確に整理できます。

(※) 都道府県や市区町村などの地方自治体が、災害対策基本法の規定に基づき作成する防災計画。防災活動の総合かつ計画的な推進を図り、住民の生命・身体・財産を災害から保護することを目的としている。

1-2 計画策定のメリットと効果

(1) 計画策定のメリット

① 災害による被害の軽減や迅速な対応

地区のルールを自ら決めて共有するとともに、実践的な訓練等を実施することで、自助・共助の意識が高まり、災害による被害の軽減や迅速な復旧・復興につながります。

② 地域コミュニティの維持・活性化

住民参加型の取組プロセスを通じて、地域コミュニティにおける良好な関係づくり、地区の実情に応じたきめ細かい“まちづくり”にも寄与することが期待されます。

(2) 計画の特徴

① 地域コミュニティ主体のボトムアップ型の計画

地区防災計画は、地区居住者等により自発的に行われる防災活動に関する計画であり、地域コミュニティが主体となったボトムアップ型の計画です。

② 地区の特性に応じた計画

地区防災計画は、計画の策定主体や防災活動の主体、地区の範囲、計画の内容など、各地区の特性や想定される災害等に応じて自由に策定できます。

③ 継続的に地域防災力を向上させる計画

地区防災計画を策定した後も、日頃から地区居住者等が力を合わせて計画に基づいた防災活動を実践し、必要に応じて評価や見直しを行うなど、防災活動を継続していくことが重要です。

(3) 地区防災計画策定の効果

地域の皆さんが協働して地区防災計画の策定に取り組むことで、地域主体の防災活動や災害時における適切な避難行動の実現など、災害に強いまちづくりができるとともに、計画策定のプロセスを通じて地域コミュニティの維持・活性化にもつながる、災害に“も”強いまちづくりを目指すことができます。



高根沢町太田自主防災会 田代会長の話

「自主防災会の役員が代わっても、
計画を作ってあれば、継続的な取
組ができる。」

1-3 制度についてもっとよく知る

地区防災計画について、さらに詳しく調べたい方へ。

下記の文献が、ホームページで公開されておりますので、ご覧ください。

内閣府地区防災計画ガイドライン

地区防災計画について理解を深め、地区防災計画を実際に作成したり、計画提案を行ったりする際に活用できるように、制度の背景、計画の基本的な考え方、計画の内容、計画提案の手続、計画の実践と検証等について説明しています。

概要 http://www.bousai.go.jp/kyoiku/pdf/guidline_summary.pdf

本体 <http://www.bousai.go.jp/kyoiku/pdf/guidline.pdf>



内閣府地区防災計画の素案作成支援ガイド

自治体の職員など計画素案の作成を支援する方向けの解説書です。

<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/chikubousai/pdf/sienguide.pdf>



内閣府地区防災計画ライブラリ

地域防災計画に反映された地区防災計画の本文を、地区防災計画の内容（対象とした課題、対策、取組主体）別にインデックスをつけ、一覧にしています。

<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/chikubousai/chikubo/chikubo/index.html>



栃木県ホームページ「地区防災計画を作ろう！」

地区防災計画の概要説明のほか、栃木県が作成したリーフレット等のダウンロードを行うことができます。

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/c02/tiiki-bousai/tiku-bousai.html>



栃木県地区防災計画策定映像教材「地域でつなぐ 私たちのいのち」

地区防災計画の策定を行う地区において、啓発講演から防災ゲームや計画づくりに至るまでの手順について解説した映像教材を公開しています。

地域の皆さんで視聴いただければ計画づくりの検討ができるようになっておりますので、ぜひご覧ください。

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/tib/5ch/bousai-anzen/index.html>



第2講 地区防災計画策定を担う人材や策定する場を設定しよう

2-1 策定を担う人材の検討

(1) 策定の主体の選定

地区防災計画は、災害が起きたときに地域で支え合うための共助の計画です。そのためまず、その共助の主体の範囲を決めます。具体的には以下のような主体が考えられますが、地域の状況によって様々な主体が考えられますので、まとめやすい主体を検討してください。

① 単独の自主防災組織・自治会(町内会)

既存の自主防災組織や自治会(町内会)を活用して計画を策定するケースです。すでに防災に関する役割分担や組織ができあがっていることが多いので、それらを生かして(必要に応じて見直して)計画づくりに取り組むことができます。

新たに組織を立ち上げる必要がない、構成員が少ないのでまとめやすいというメリットはありますが、組織の活動が休眠状態であったり、防災に熱心なリーダーがいない場合には、まず防災活動の必要性を地域の方に啓発していく必要があります。

② 複数の自主防災組織・自治会(町内会)の連合体

小学校区など、避難所を共同利用する、地域特性が同じ等、共通の目的を持つ複数の自主防災組織・自治会(町内会)でまとまって計画を策定するケースです。

共通の目的を達成するための計画ができる、構成員数が増えることで人材が豊富になるメリットはありますが、新たに連合体を立ち上げるなど、組織同士の調整が必要となります。

壬生町城址地区防災計画連絡会 荒川会長の話

「お祭りを一緒に開催する10の自治会で計画策定したが、この取組を通じて、お祭り以外の話もできるようになりました。また、地区全体で防災意識を高めることができました。」

③ マンション管理組合など

一つ(または複数)のビルに入居するマンション管理組合やビル管理組合などの単位で計画を策定することで、ビルに特有な災害対応や避難行動について検討することができます。

(参考：26ページ 下野市ダイヤパレス地区)

④ その他

商店街や旅館組合など目的を同じくする団体で策定することや、事業所など地域に立地する団体と連携して策定することも有効な場合があります。

(2) 策定を支援する人材(アドバイザー)の選定

地区防災計画は、地区の方々が自発的に行う防災活動についての計画を主体的に策定するものですが、策定にあたっては、防災に関する知識や進め方などについてアドバイスしてもらえる支援者を探すことをおすすめします。

① 市役所・町役場の防災担当課や公民館等の職員

防災活動は自助・共助・公助がそれぞれ連携して行われることが重要です。そのため、地区防災計画の策定にあたっては、市役所・町役場で行われる取組と地区の活動が適合するものとなるよう、市役所・町役場の防災担当課や公民館等の職員に参画してもらうようにしましょう。

市町によっては、計画策定の取組を支援する制度がある場合もありますので、相談してみましょう。

② 防災士

身近な地域の防災の専門家として防災士がいます。県が養成した「とちぎ地域防災アドバイザー」や市町が養成した防災士など、アドバイザーやファシリテーター(進行役)としての活躍が期待できます。

また、県のモデル事業を担当したNPO法人栃木県防災士会は、地区の状況に応じて、講演会や防災ゲームの実施などを含め、計画策定の支援のため防災士を派遣いたします。

高根沢町太田自主防災会 田代会長の話

「町が養成した防災士にグループワークに入ってもらった。地元の方は、同じ地元の人より外部の人の話の方をよく聞く。計画づくりに第三者の目線を入れることができました。」

③ 防災に関する有識者

日頃防災について研究する大学教授等の有識者に意識高揚のための講演を依頼することも効果的です。内閣府のモデル事業で実際に地区に入り込んで計画策定支援を行っている先生もいます。

2-2 地域住民の参画や関係団体等との連携

(1) 地域住民の幅広い参画

地区防災計画を策定する際には、実際に計画に基づいて行動することとなる地域住民みんなが参画して、様々な立場の意見を反映することが重要です。しかしながら、地域住民みんなが集う機会を設けるのは難しく、現実には役員等のリーダーが中心となって計画策定を行っていくことが多いのではないかと思います。

そこで、できるかぎり、地域住民みんなが、地域の災害リスクを把握して、災害が起きたときにどのような行動をとるべきか理解していただくために、以下のような取組を実施してみることも検討しましょう。

また、意識的に女性や若者など幅広い視点を取り入れるようにしましょう。

① 防災講演会、防災訓練・防災ゲームへの参加

計画策定のプロセスで、防災意識の高揚のための講演会を開催したり、さまざまな防災訓練・防災ゲームをワークショップとして実施すると(参照:16ページ)、実際の災害のシミュレーションができ、防災への理解が深まります。実施方法によっては大人数での実施も可能ですので、回覧板などで開催の告知をすると良いでしょう。

② わかりやすいパンフレットの配布

計画に記載された地域の災害リスクや避難行動について、地域の人々が理解しておく必要があることから、簡潔でわかりやすいパンフレットを作成し、全戸配布することで地域住民を巻き込むことができます。



宇都宮市瑞穂野地区が作成した「わが家の防災」

地区のハザードマップのほか、災害への備えなどについてわかりやすく記載している

(2) 関係団体との連携

地域の防災活動を充実させるには、地域に所在するさまざまな関係団体との連携体制を築き、共助を進めていくことが重要です。

① 消防団

自主防災組織と並び地域防災の要となる消防団は、地域の災害リスクを把握していたり、若い世代の団員がいるなど、有効な意見が得られます。

また、災害時には、共同して土のう積みを行ったり、消防団が得た地区内の道路や河川の状態、避難の情報を自主防災組織に提供するなど、あらかじめどのような協力体制が取れるか話し合っておくといいでしょう。

② 民生委員や社会福祉協議会など

避難行動要支援者について、普段の活動から必要な支援の内容を把握していることから、避難に係る支援や避難所運営の方法を検討する際に有効な意見が得られます。

③ 学校

子どもたちへの防災教育の担い手であり、計画策定に子どもの参加を取り入れると意見交換が活発となります。また、避難所となることも多いことから、避難所運営の方法についてあらかじめ話し合っておく必要があります。



鹿沼市加蘇地区の計画策定に参加した子どもたち

④ NPOやボランティア、民間企業

災害時に支援活動を行うNPOやボランティア、地区内に立地する民間企業とあらかじめ連携方法を検討しておきましょう。

宇都宮市瑞穂野地区自主防災会 坂本会長の話

「交通安全協会や防犯協会など、瑞穂野地区内にあるさまざまな関係団体と連携して計画策定することで、“オール瑞穂野”で取り組んでいくこととしています。」

2-3 策定を進める場の設定

計画を策定していくには、地域の住民や関係者に集ってもらい、計画に盛り込む内容をみんなでお話合ってもらわなければならない。

日頃から話し合いの機会を持っているのであればいいのですが、そうではない場合、みんなに参加してもらえるような工夫をしてみましょう。

① 自治会・自主防災組織の会合

最も一般的なのは、策定の主体である自治会・自主防災組織などで会合の機会を持つことです。会合は、定期的に開催している会に計画策定の話し合いを議題として加える方法や、計画策定の話し合いに特化して開催する方法などがあります。計画策定までに4～5回程度集まらなくてはならないことや、1回あたりの所要時間が2時間程度かかることから、県のモデル事業では計画策定に特化して開催したケースが多かったです。

② さまざまな地域活動での機会づくり

計画策定の際に防災講演会やワークショップを開催する場合、様々な住民に参加いただくことで地域全体の防災意識が高揚します。そのためには、自治会など地域の団体は、防災についてだけでなく、子ども会や老人会、スポーツ大会やお祭りなど、さまざまな活動を行っていると思いますので、それらの機会に、防災「も」考える時間を確保すると、負担感なく継続的に取り組むことができます。

塩谷町芦場新田区自主防災組織 井澤会長の話

「住民は訓練なんてやりたくないし、面白くない、災害なんて起こらないから楽しい行事をやった方がよいと思っている。訓練や策定会議等は、なるべく区の行事に併せて行うことにして、住民の負担を減らしました。」

上三川町石田地区自治会自主防災連合会 佐久間会長の話

「高齢化の課題を抱えていることから、若い人や女性に参加してもらえるよう、体育祭やおみこし、育成会など様々な機会で見える関係作りに取り組んでいます。」

第3講 地区防災計画策定の流れ

地区防災計画は、どのように作るか、どのような内容にするか、それぞれの地区の状況に応じて自由に作ることはできますが、以下に一例を示します。

STEP 1 事前準備

① 基本的な取組体制を整える

第2講で掲載したとおり、誰が進めていくか(策定の主体)、アドバイザーをどうするかなどについて決めます。策定の主体の中でも、中心となる人物(自主防災会の会長、防災リーダー…)をあらかじめ決めておくといいでしょう。

② 計画づくりに向けた気運を高める

計画策定にあたっては、どのような計画にするかを住民みんなで考えていく必要があることから、住民みんなの防災についての意識や知識を高めておく必要があります。

そのため、有識者や防災士などを招いて、「防災講演会」を開催するといいでしょう。テーマは、近年の災害の特徴や自分でできる災害対策(自助)、地域で行う災害対策(共助)などに関するものを中心に考えましょう。

また、最終的にできあがった計画は、市町の地域防災計画と歩調を合わせたものでないと実効性がないので、市町の防災担当者などに参加してもらうようにしましょう。

STEP 2 工程確認

① リスクや課題を考える

地域で過去に発生した災害や、地域特性を把握します。

過去の災害履歴は、文献(災害史など)のほか、地域において言い伝えられている話があれば、具体的に、どのような被害があったか、何が問題だったかなどについて知ることができます。

地域特性は、行政が作成している想定地震震度分布や出火延焼拡大エリア、浸水想定区域、土砂災害警戒区域などで危険度を知ることができます。

また、避難所や避難路、消火栓、防火水槽等の消防水利のほか、実際に地域を歩き、危険になりそうな場所(がけ崩れが起きそうな場所、火災時に火が燃え広がりそうな場所、地震発生時に建物やブロック塀が倒壊しそうな場所など)についても確認します。

市町が発行している「ハザードマップ」は浸水想定区域、土砂災害警戒区域、避難所などを含めまとめて記載しているので参考になります。

地域特性の例

① 自然特性

山地や河川等の状況、居住地の分布、過去に起きた災害、災害リスク（想定地震震度分布や出火延焼拡大エリア、浸水想定区域、土砂災害警戒区域など）

② 社会特性

人口、世帯数、年齢構成、避難行動要支援者、自主防災組織や自治会の構成、避難所・避難場所、備蓄の状況

② 防災まち歩き・防災マップの作成

地域のリスクや課題を検討する上で、実際に地域のリスクを見て回り、それを地図上に落とし込むことで、机上では見えていなかった地域の課題を理解することができます。

そこで作成された防災マップは、各世帯に配布したり、地区防災計画の一部として位置づけることもできます。

防災まち歩き・防災マップ作成の進め方(例)

○用意するもの

まち歩き用地図、カメラ、画板、筆記用具、チェックシート、会場作業用地図、模造紙、付せん紙(大きめ)、丸シール

○作業の流れ

① 会場のセッティング、班分け

6～10名程度となるように班分けをして、各班で地図を広げられるように机をセッティングします。

② 役割分担

リーダー（班を引率）、記録係（地図やチェックシートに必要な情報を記入）、カメラ係（必要な場所で撮影）、安全管理係などあらかじめ決めておきます。

③ まち歩きスタート

あらかじめ話し合った危険箇所等について、実際に歩きながら点検します。避難をする際に支障となるものや、災害時に必要な場所など地図やチェックシートに記入し、写真撮影していきます。

④ 防災マップの作成

まち歩きの結果を地図に清書していきます。危険箇所等の写真についても地図に貼り付けていきます。

◆チェックシート例◆

		凡例	メモ
安全な場所	1	広い空間	
	2	広い駐車場	
	3	公園・広場	
	4	高いところ	
	5	消火栓・消火器	
災害時に役に立つ場所	6	防犯灯	
	7	防火水槽・井戸・水場	
	8	消防機庫	
	9	公衆便所	
	10	公衆電話	
	11	病院・医院	
	12	薬局	
	13	防災資材のある店	
	14	コンビニ・スーパー	
	15	掲示板	
危険な場所	16	狭い道	
	17	行き止まり	
	18	危険な道	
その他	19		
	20		
	21		
	22		
	23		
	24		
	25		
	26		
	27		
	28		
	29		
	30		

安全な場所…青丸シール、災害時に役に立つ場所…緑丸シール、危険な場所…赤丸シール、その他…黄丸シール など

最後に、各班が作成した地図を見ながら意見交換し、完成版としますが、定期的に見直しを行うなど、よりよいものとなるように工夫します。

STEP 3 骨子作成

① 課題と対策を検討し、計画骨子をまとめる

災害リスクや地域特性を踏まえた課題とその対策を検討し、地区防災計画に盛り込みたい内容を検討します。その際、地域のみならず考えた内容が盛り込まれると、計画策定後も主体的な取組が期待できます。

検討(ワークショップ)の進め方(例)

①グループ分け

6～8名程度でグループ分けをして、進行係、書記係、発表係など役割分担をします。

②グループ検討

各個人で「課題」を考え付せんに1項目ずつ記入しておき、次にグループ内で考えた内容を発表します。「対策」についても同様に行います。全員発表したら、グループとして発表する項目を検討します。

③発表

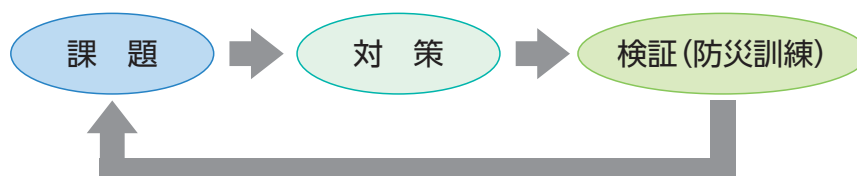
各グループごとに発表内容を模造紙等に記載し、発表します。



② 計画骨子に基づく活動を展開する

計画の骨子がまとまったら、その内容が実際に機能するか、不足していることがないか、防災訓練(避難訓練やワークショップ(体験ゲーム)など)を並行して実施するなど、検証してみましょう。

ワークショップ(体験ゲーム)は、16ページで詳しく説明していますが、計画づくりの基本となるのは、災害図上訓練(DIG)になります。DIGを実施することで、これまで検討してきた課題と対策について、地域の地図を用いて検証することができます。また、防災まち歩きや防災マップづくりの結果も反映することができます。



STEP 4 計画素案作成

① 計画素案を作成し、対象地区全員で共有する

計画素案に盛り込む内容は、これまでの話し合いを受けて住民のみんなが必要と考える事項を盛り込むことになります。以下に一例を示しますが、このすべてを盛り込む必要もありませんし、これ以外の事項を盛り込むこともできます。

地区の特性と防災マップ

過去の災害履歴や地区の危険箇所・災害時に役立つ施設、地区住民の状況（災害時要支援者の状況）などを把握するとともに、防災マップを作成して地区の状況を目に見える形で把握します。



防災マップの例

活動体制

平常時及び災害時の活動体制について、役割分担を具体的に決めて班編制を行います。

避難路・避難所

避難所の状況を確認し、そこに至る避難路をあらかじめ検討しておきます。その際、市町や消防と十分協議して避難計画を考えておく必要があります、避難行動要支援者は避難に時間がかかることも踏まえておく必要があります。

初動対応

風水害が起こることが想定されるときや地震・火災が発生した直後等における被害防止、初期消火、救出・救助の対応について定めておきます。

避難所の開設・運営

避難所の運営は市町や施設管理者と連携して行うことが重要です。開設は誰が行うのか、運営方法（受付、給水・給食、衛生管理、避難行動要支援者の支援等）をどうするかについて、あらかじめ協議しておきます。

備蓄

避難誘導や初期消火、救出・救助に必要な資機材や炊き出しに必要な食料や飲料水をどの程度揃えておくか、どこに備え付けておくか（防災倉庫など）について検討しておきます。

関係団体との連携

消防団や民生委員・社会福祉協議会など、災害時に連携して行動ができるよう、連携体制についてあらかじめ協議しておきます。また、地区内にある企業やNPOなど避難時に行動を共にする可能性のある団体とも話し合っておきます。



多様な団体が参加した栃木市吹上地区

訓練の実施と計画の見直し

地区防災計画は実情に応じて不断の見直しをしていくことが重要ですので、定期的に防災訓練を実施して、その結果を基に計画を見直すようにしましょう。

② 市町防災会議への提案

策定した地区防災計画の素案を、市町地域防災計画に定めるよう、市町防災会議に提案することができます（※必ず提案しなければならないものではありません）。

提案を受けた市町防災会議は、内容を確認の上、必要があれば市町地域防災計画に定めることとなります。

市町地域防災計画に定めるためには、地区防災計画と市町地域防災計画が連携して活動を行い、地域防災力を向上させるものとなっていなければならないので、市町担当課と十分連携して策定していくことが必要です（※）。

(※)「消防団を中核とした地域防災力の充実強化に関する法律」第7条第2項により、市町村は地区防災計画を定めた地区について、地区居住者等の参加の下、地域防災力を充実強化するための具体的な事業に関する計画を定めることとされています。

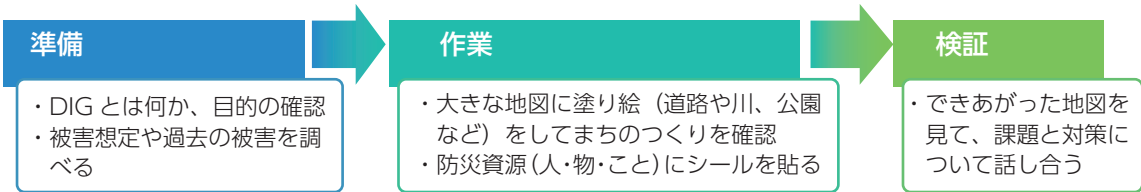
補講 さまざまな防災訓練・防災ゲーム

ここでは、地区防災計画策定にも役立つさまざまな防災訓練・防災ゲームについて紹介していきます。

① 災害図上訓練（DIG：Disaster Imagination Game）

災害が起きたことを想定し、模造紙サイズの地図に地域資源や危険箇所等を参加者自ら記入していくことで、自分の地域の特性や危険性が見える化し、どのような対策が必要か考えていきます。

<手順>



「内閣府ホームページ」

http://www.bousai.go.jp/kohou/kouhoubousai/h20/11/special_03_1.html



② クロスロード

カードに書かれた事例を自らの問題として考え、YESかNOかで自分の考えを示すとともに、参加者同士が意見交換を行いながら、ゲームを進めていきます。

「内閣府ホームページ」

<http://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/torikumi/kth19005.html>



③ 避難所運営ゲーム（HUG：Hinanjo Unei Game）

避難者に見立てたカードを用いて、グループで議論しながら、さまざまな状況におかれた避難者を適切・迅速に避難所に配置していき、避難所運営の方法について学ぶことができます。



小山市大字間々田自主防災会のHUGの様子

「静岡県地震防災センターホームページ」

<http://www.pref.shizuoka.jp/bousai/e-quakes/study/hinanjyo-hug.html>



④ 防災運動会

防災訓練をシミュレーションした運動会（担架リレー、バケツリレー、土のう積み合戦、防災クイズなど）。地域の運動会等の行事とあわせて実施することで、幅広い参加が可能で、防災を身近なものとして捉えることができます。

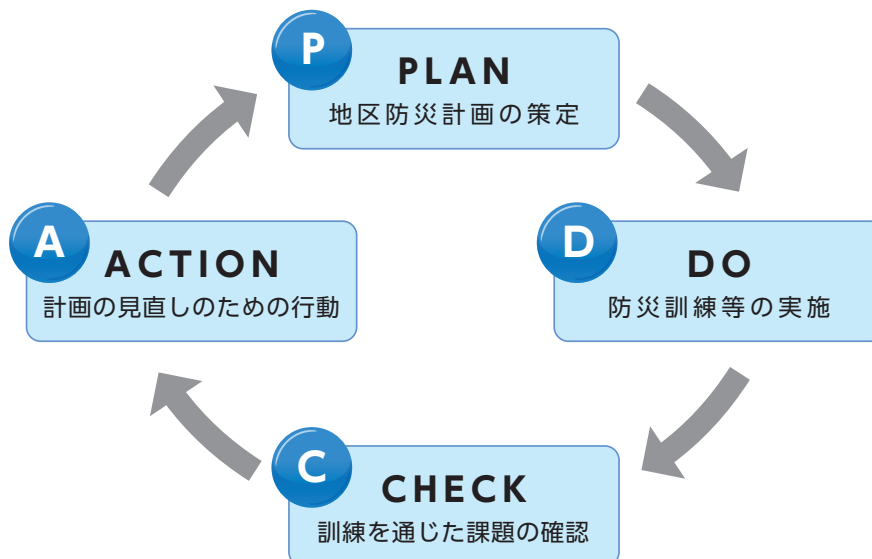


第4講 地区防災計画の充実に向けて

地区防災計画は作って終わりではありません。災害時に、計画に従って適切な行動ができるかどうか、防災訓練を実施するなど検証し、課題があれば再度計画の内容を検討し、より地域の実態に合った計画となるようにしていくことが必要です。(PDCAサイクルの完成)

1年に1回以上は防災訓練や資機材・備蓄品の確認、防災講話などの活動を行い、計画の見直しをしていくことが大切です。この活動を通じて、地域コミュニティの活動の活性化にもつながることになります。

防災訓練の実施にあたっては、市町の担当課や防災士等の専門家にも入っていただき、客観的な視点で検証しておくことも有用です。



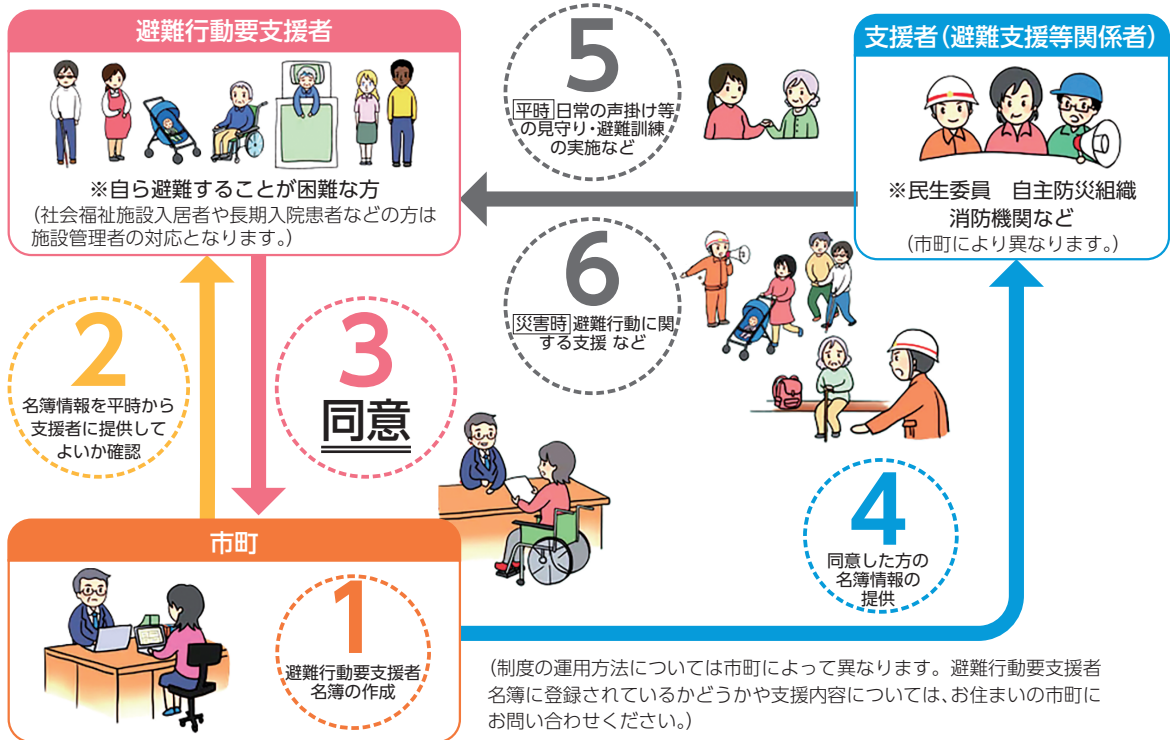
補講 個別避難計画(避難行動要支援者)

① 個別避難計画について

災害対策基本法の一部改正により、避難行動要支援者の円滑かつ迅速な避難を図る観点から、市町村は個別避難計画を作成するよう努めなければならないこととされました。

個別避難計画は、③避難行動要支援者の情報(氏名、住所、連絡先、支援が必要な理由等)、⑥避難支援等実施者の氏名又は団体名、住所、連絡先、⑦避難施設その他の避難場所、避難路その他の避難経路に関する事項を記載するもので、あらかじめこれらの事項を定めておくことで、災害時に速やかに避難行動に移れるようにするための計画です。

参考：自ら避難することが困難な方への支援イメージ



② 個別避難計画と地区防災計画について

避難行動要支援者の個別避難計画策定では、家族や福祉専門職、民生委員等のほか、自主防災組織等の地域住民もその連携主体として期待されることから、地区防災計画の策定にあたっては、個別避難計画で定められた避難支援を含め、地域全体での避難が円滑に行われるよう、避難支援の役割分担や支援内容を整理し、両計画の整合性を図るとともに、訓練等で両計画の連動について実効性を確認することが重要となります。





宇都宮大学生による計画策定のススメ

ここでは、宇都宮大学地域デザイン科学部の3年生が地域プロジェクト演習で検討した内容をご紹介します。



地区防災計画の普及に向けて

3班

コミュニティデザイン学科
建築都市デザイン学科
社会基盤デザイン学科
地域パートナー

佐藤妙衣
新舎陸 馮宇軒
遠藤大輔 番場恵梨子
栃木県県民生活部消防防災課

背景

地区防災計画は、災害時の住民同士の共助のための計画であり、地区ごとに自由に策定できるものである。地域住民が主体的に計画に参加するため、市町村や都道府県が策定している地域防災計画に比べて地区の特性を取り入れながら、より住民目線の計画にすることができる。しかし、栃木県では地区防災計画を策定している地区の少なさが課題となっており、今後未策定の地区に普及させていく必要がある。

目的

地区防災計画を策定する際の流れや必要な準備などを整理し、県が作成する地区防災計画策定に関するマニュアルに対して意見交換、提案を行い、地区防災計画未策定の地区に対して有効なアプローチの方法を検討することを目的とする。

方法

1stcycle

- ・栃木県における過去の災害事例や地区防災計画について調べた。
- ・地区防災計画の策定が進んでいる上三川町石田地区にヒアリングを行った。

2ndcycle

- ・各地域への質問内容を考え、栃木県内の自治体へのアンケートを行った。
- ・アンケート結果を整理し、その結果からヒアリング先の候補を出した。最終的に宇都宮市瑞穂野地区、壬生町城址地区、高根沢町太田地区にヒアリングを行った。

3rdcycle

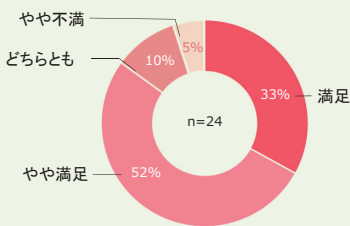
- ・分析結果をもとに、計画策定ポイントを提案する



写真1 1stcycleにおけるヒアリングの様子

分析結果

アンケート結果：地区防災計画への満足度



85% 満足・やや満足と回答した市町

住民が意欲的に計画策定に参加している住民の合意のもと作成されている

15% どちらとも・やや不満と回答した市町

計画策定に住民が積極的に参加していない策定には至ったが、機能するまでには至っていない

ヒアリング結果：地区防災計画を策定する際に工夫したこと

① 高根沢町太田地区

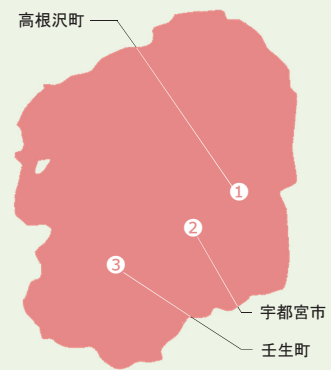
防災士の方などに積極的に活動してもらい
難しい言葉などを使わない

② 宇都宮市瑞穂野地区

地域の人に理解してもらえ
るようなものを作る
地区の特性に合わせた計画

③ 壬生町城址地区

防災訓練への参加の呼びかけ
複数の自治体で策定
普段お祭りを合同で行う



分析結果より住民の防災意識の低さ、住民の防災における知識不足を改善するために、計画の策定方法の工夫や内容の充実が必要と分かる

提案

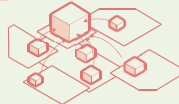
計画の策定方法



住民の理解

目的
災害が少ない地域においても住民の理解を得て地域全体で地区防災計画をつくる

提案
住民用に簡略化した地区防災計画を配布



自治会同士の連携

目的
いざというときに自治会同士で助け合えるようにコミュニケーションをとる

提案
合同での避難訓練やイベントを開催する



防災訓練

目的
防災に関心がない人や子どもといった層の、防災訓練への参加率を高める

提案(プログラム例)
① テント泊体験
② 防災グッズ体験
③ 火起こし体験

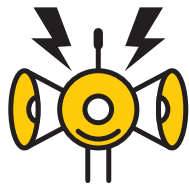
計画内容の充実



情報伝達

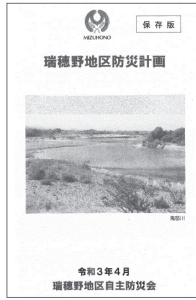
目的
特に大学生など若い世代を対象に連絡網を受けられない人に対する伝達手段を増やす

提案
TwitterなどのSNSを利用した情報伝達をする



事例集編

市町名	宇都宮市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	瑞穂野地区	活動目標		要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	瑞穂野地区自治会内の全世帯員	活動予定		避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	3,882世帯	資材備蓄		マップ	○
計画策定年月	令和3年5月	相互支援	○	その他	○
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.10.24 第1回会合(防災士会理事長による講演) R2.11.18 第2回会合(HUG訓練) R2.12.7 第3回会合(DIG訓練) R3.3.13 まち歩き R3.3.23 第4回会合(まち歩きのとめと発表) R3.4.26 地区で作成した既存資料の確認と計画策定にあたっての方針についての意見交換 R3.5.7 計画案の作成 R3.5.11 自主防災会と行政(危機管理部門、まちづくり部門)との意見交換 R3.5.25 各自主防災会へ意見照会、計画策定 R3.6.29 避難所開設・運営に関する地域・学校・行政の連絡会議 R3.7 (仮称)防災のしおり作成に関する会議		<ul style="list-style-type: none"> ・既存資料を体系化することで、わかりやすい計画に ・資料編に避難所の想定レイアウトなどを盛り込んだ ・新型コロナの影響によりスケジュール変更や参加者が限定された 			



市町名	栃木市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	寺尾地区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	寺尾地区自治会連合会	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	1,082世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和3年4月	相互支援	○	その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.3.19 連合会の会議において市担当者から説明して了承 R2.6.12 県、防災士会、市担当者の事前打ち合わせ R2.7.22 連合会の会議で事業の進め方の説明 R2.9.16 連合会の会議で日程、策定メンバーの選定について協議 R2.10.15 第1回会合(防災士会による講演・まち歩き防災マップ作成方法説明) R2.11.5 第2回会合(HUG訓練)、自治会毎にまち歩き予定箇所選定 R2.11.28 まち歩きの実施 R2.12.10 第3回会合(防災マップの作成) R3.2.11 第4回会合(地区防災計画の検討、地区防災計画案の作成) R3.3 連合会の会議で地区防災計画の承認 R3.4 地区防災計画の全戸配布 R3.5 ~ 各自治会において自主防災組織の設立準備		<ul style="list-style-type: none"> ・地域全体が連携した計画となるように、計画策定メンバーに地区内の各種団体の代表者を加えた。 ・計画を地域住民に知ってもらえるように、冊子にして印刷し、事業所を含め地域内全戸に配布した。 ・誰がいつ何を行うのかがわかるように、各団体ごとの役割を記載した一覧表を作成した。 ・連合会内の各自治会において自主防災組織を組織し、各自治会が相互支援するような計画とした。 			



市町名	佐野市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	葛生地区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	葛生地区内15町会で策定	活動予定		避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	2,549世帯	資材備蓄		マップ	○
計画策定年月	令和3年3月	相互支援	○	その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R元.5.29 第1回会合(地区防災計画の概要説明) R元.6.17 第2回会合(計画作成に向けた全体会議、役員会の代表選出) R元.7.22 第3回会合(役員の選任、計画作成に向けた手順、予想される災害について確認) R元.9.25 第4回会合(災害危険箇所、地域特性の把握) ～令和元年東日本台風により当分の間休止～ R2.10.29 第5回会合(新町会長に地区防災計画について説明) R2.12.1 第6回会合(地区内の災害危険箇所を白図に示す) R3.2.25 第7回会合(地区防災計画(素案)作成) R3.3.8 第8回会合(地区防災計画(案)作成) R3.6.16 第9回会合(地区防災計画の策定完了)		・身近な危険箇所を再認識するため、令和元年東日本台風により被害を受けた地区内の小さな河川(浸水想定などが公表されない河川や土砂崩れが発生した箇所)を白図に書き込み、計画に盛り込んだ。			

市町名	鹿沼市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	加蘇地区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	地区内の全自治会(6自治会)で組織	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	642世帯	資材備蓄	○	マップ	
計画策定年月	令和3年3月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R元.10 令和元年東日本台風により被災(家屋、道路の流失、指定避難所の被災) R2.7.16 地域包括ケアシステム協議体打ち合わせ R2.8.4 地域包括ケアシステム協議体会議(消防団員より東日本台風時の救助活動の説明、地区防災計画策定促進事業に参加了承) R2.8.28 県、市担当を交えて事業打ち合わせ R2.9.15 第1回会議(県防災士会理事による講演) R2.10.17 まち歩き(各自治会、小中学生グループが実施) R2.10.17 第2回会議(防災マップづくり) R2.11.19 第3回会議(HUG) R3.3 役員に防災計画素案、調査票を送付 R3.3.4 第4回会議(地区防災計画の検討・策定) R3.7.1 出水期に向けた自治会長、消防団の懇談会 R3.7.15 自治会長、支部長による指定避難所の清掃、資機材の点検		・消防団員が東日本台風の救助活動時の危険な状況を自治会長等に話し、防災対策の必要性を共有。若い人達からの訴えを自治会長等が危機感をもって受け止め、その後の策定作業にも協力的に関わってくれた。 ・まち歩きは小中学校に協力を仰ぎ、地域の子どもにも参加してもらった。 ・モデル地区の活動を単発で終わらせないよう、地区コミュニティ推進協議会の年間計画に防災関係事業を明記した。 ・コロナウィルス感染症拡大のため会議や打合せが必要最低限しか開催できず、意見交換の時間が十分に取れなかった。素案に調査票を同封して送付するなど役員の意見を聴取する工夫をした。			

加蘇地区防災計画(案)



市町名	日光市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	裏見台自治会	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	裏見台自主防災会	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	213世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和3年3月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R元.11 市自治会長研修会で説明。策定要望募集 R2.1 モデル地区を裏見台自治会に決定 R2.5 県、防災士会、市担当者の事前打ち合わせ R2.7.5 自治会への説明 R2.11.14 第1回会合(防災士会による講演) R2.12.5 第2回会合(HUG訓練) R2.12.5 第3回会合(DIG訓練) R3.1 第4回会合中止、市が作成した案を元に自治会宛て検討依頼 R3.2 素案の内容を防災士会に確認依頼し、計画の最終修正 R3.3.8 計画決定	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの影響により自主防災会のメンバーに多く参加いただくことはできず、役員中心の検討となったが、会合とは別に自治会内での意見集約等を行った。 ・4回の会合を予定していたが新型コロナウイルス感染症の拡大のため、会合は2日間に集約した。 				



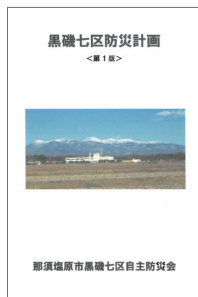
市町名	小山市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	大字間々田自主防災会	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	8自治会による自主防災会で組織	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	2,433世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和3年5月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R元.6 大字間々田自主防災会へ地区防災計画策定の打診 R元.6 栃木県地区防災計画策定促進事業の申請 R元.7 地区防災計画策定促進事業実施に向けた事前調整 R元.8.28 第1回会合(防災士会理事長による講演) R元.9.18 第2回会合(HUG訓練) R元.10.23 第3回会合(DIG訓練) R元.11.17 まち歩き 防災マップ作り R元.11.27 第4回会合(計画策定に向けた意見交換) R2.1 地区防災計画作成事務 R2.10 自主防災会内の現況調査 R2.12 最終調整 R3.5 大字間々田自主防災計画(案)の完成	<ul style="list-style-type: none"> ・まち歩きは、地元消防団にも協力いただいた ・モデル事業期間後は、自主防災会の役員と連絡を取りつつ案の策定を進め、最終調整前に自主防災会内の現況を再調査し、計画に盛り込んだ。 ・自主防災会役員との連絡では、仕事があるなど、スムーズにいかなかった。新型コロナウイルス感染症に伴う自主防災会の活動自粛も重なり、自主防災会内での作業が滞った。 				

市町名	真岡市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	西田井地区	活動目標	○	要配慮者	
地区内の自主防災組織の構成	10町会で構成	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	408世帯	資材備蓄		マップ	○
計画策定年月	令和2年3月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R元.10.14 市担当者から区長に打診 R元.11.11 地区において会議開催、了承 R元.11.21 県、防災士会、市担当者の事前打ち合わせ R元.12.2 第1回会合(防災士会理事長による講演) R2.1.18 第2回会合(HUG訓練) R2.2.9 第3回会合(DIG訓練)、まち歩き R2.2.20 まち歩きの結果を市担当者・地区役員でとりまとめ、マップの作成 R2.3.2 第4回会合(計画策定に向けた意見交換) R2.3.30 計画を地区内に周知 R2.11.1 計画に基づく防災訓練を実施		<ul style="list-style-type: none"> 策定の会合において、女性の意見を取り入れるため、地区の女性防火クラブの方を中心に、声をかけて参加していただいた。 令和元年東日本台風等の経験を、計画に反映させた。 			

市町名	大田原市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	大田原市西部地区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	9自治会(うち7自治会は自主防災組織結成済)	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	3,406世帯	資材備蓄	○	マップ	
計画策定年月	令和3年3月10日	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.5.22 赤堀西自治会長が市役所に来庁し、西部地区防災計画策定の意欲を示す R2.8.26 モデル事業に関する打合せ(県、県防災士会、赤堀西自治会長、市担当者) R2.9.2 第1回会合(県防災士会による講話) R2.10.21 第2回会合(HUG) R2.11.27 第3回会合(DIG、まち歩き防災マップ作成の説明会) R3.2.19 第4回会合(西部地区防災連絡協議会の結成に向けた打合せ) R3.3.7 第5回会合(地区防災計画書等の最終確認) R3.3.10 西部地区防災計画策定 R3.10 西部地区総合防災訓練を実施		<ul style="list-style-type: none"> 取組の内容を構成自治会内に広く周知するために、広報紙を作成し回覧を行った。 新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響により、まち歩き防災マップ未作成の状態で、計画を策定しなければならなかった。 			

市町名	矢板市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	片岡4区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	片岡4区行政区	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	140世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和2年2月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R元.6~8 市担当者から各行政区長に打診 R元.9.5 片岡4区行政区にて了承 R元.10.23 片岡4区行政区長と今後の進め方の検討 R元.10~11 県、防災士会と事前打ち合わせ R元.11.1 自治会にて住民へ参加募集 R元.11.24 第1回会合(防災士会理事長による講演) R元.12.1 第2回会合(HUG訓練) R2.1.19 第3回会合(DIG訓練) R2.1.26 まち歩き及びマップ作成 R2.2.9 第4回会合(計画の検討・策定) R2.3 計画及びまち歩き防災マップを片岡4区行政区全世帯に配布		<ul style="list-style-type: none"> 策定の会合において、様々な意見を取り入れるため、幅広い年齢層で参加した。 土砂災害警戒区域があるため、その危険性を再認識したうえで、どのような行動をすればよいか考えた。 行政区の方々、計画を理解し、読めなければ意味がないので、重要な事項を簡潔かつ詳しく記載した。 			

市町名	那須塩原市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	黒磯七区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	黒磯七区自主防災会で策定	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	404世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和3年3月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.8.22 自主防災会において会議開催、了承 R2.9.1 市担当者と会長とで今後の進め方の検討 R2.9.15 県、防災士会、市担当者の事前打ち合わせ R2.9.25 自治会回覧板にて住民へ参加募集 R2.10.17 第1回会合(防災士会理事長による講演) R2.11.21 第2回会合(HUG訓練) R2.12.6 那須町中原地区防災計画研修に参加 R2.12.19 第3回会合(DIG訓練) R3.1.16 まち歩き R3.2.6 第4回会合(策定に向けた意見交換)、マップ・計画の案作成、意見聴取 R3.2.27 計画書素案を防災士会、市担当者、会長が最終確認 R3.3.14 自主防災会総会にて計画決定、計画を各戸に配布		<ul style="list-style-type: none"> 策定の会合において、男女協働や様々な視点を取り入れるため、女性にも参加していただいた。 新型コロナウイルスの影響により自主防災会のメンバーに多く参加いただくことはできず、役員中心の検討とはなったが、検討の状況について地区内広報誌を活用し広く周知した。 計画に合わせて、防災マップを作成した。 防災マップの作成に関し、実施したまち歩きにおいては地区内の子どもたちにも参加してもらい、イベント性を持たせた。 			




市町名	さくら市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	喜連川中央行政区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	喜連川中央行政区	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	約490世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和3年3月	相互支援	○	その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.6 市担当者から打診・了承 R2.7.7～9.3 市担当者と自主防災組織で事前打ち合わせ(3回) R2.9.25 第1回会合(防災士会理事長による講演) R2.10.16 第2回会合(HUG訓練) R2.11.7 市担当者と自主防災組織で打ち合わせ(まち歩き、第4回会合前にも実施) R2.11.29 第3回会合(DIG訓練) R2.11.29 まち歩き R2.12.19 第4回会合(計画策定に向けた意見交換) R3.1.25 計画決定 R3.3.19 市地域防災計画への位置付け R3.9 計画に基づく防災訓練を実施		<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定後も継続的な活動を展開できるよう、モデル地区の自主性を尊重し計画策定を進めた。 ・重点的な取組として、計画に要配慮者の避難対策を記載した。 ・令和3年度に宇都宮大学生との協働により避難支援、安否確認を含めた防災訓練を実施した(9/26)。 			



市町名	那須烏山市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	向田・落合地区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	向田・落合自主防災組織	活動予定		避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	277世帯	資材備蓄		マップ	○
計画策定年月	令和3年3月	相互支援	○	その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
~R2.3 実施地区の選定 R2.4~5 向田・落合地区、栃木県防災士会との打ち合わせ、実施日程の調整 R2.7.11 第1回研修会(防災講話) R2.8.8 第2回研修会(HUG) R2.9.12 第3回研修会(DIG) R2.9~10 防災まち歩き R2.10.24 第4回研修会(防災マップ・地区防災計画検討) R2.10~R3.2 防災マップ検討 R3.3 地区防災計画、防災マップ完成		<ul style="list-style-type: none"> ・最初から完璧な計画は目指さない=令和2年度時点で出来ることから始める。 ・更新を想定した計画とする=行政、自主防災組織の担当者が変わっても更新できるよう、専門的なシステム等は利用しない。お金がかかりすぎることはしない。 ・感染症対策も踏まえる=講習会等は密を避け、少人数で実施。 ・工夫点=自主防災組織からの意見・要望・防災計画案・地図案の添削・出力 			

市町名	下野市	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	
モデル地区名	ダイアパレス地区	活動目標	○	要配慮者	
地区内の自主防災組織の構成	ダイアパレス自主防災会	活動予定		避難	○
		防災訓練		避難所	
地区内の世帯数(策定時)	111世帯	資材備蓄	○	マップ	
計画策定年月	令和3年3月	相互支援	○	その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.2 市担当者から自主防災会に打診 R2.8.20 栃木県防災士会、栃木県との初顔合わせ R2.9.23 第1回会合(意識啓発のための基調講演) R2.10.20 第2回会合(HUG訓練) R2.11.24 第3回(DIG訓練) R2.12.13 まち歩き(防災マップづくり) R3.2.24 第4回(地区防災計画の検討・策定) R3.3 防災Book作成		・コロナ禍を考慮し、自主防災会の中での対面での話し合いも短時間で集中して行うことに重きを置いた。事前に資料を配布し日程調整をこまめに行った。 ・幅広い年代の方に分かりやすく理解してもらうために、読ませることよりもパッと見て分かるよう見せる工夫をした。			

市町名	上三川町	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	石田地区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	石田5自治会による自主防災連合会で策定	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	323世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和2年4月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.10.27 第1回会合(防災士会理事長による講演) R2.11.17 第2回会合(HUG訓練) R2.12.7 第3回会合(DIG訓練・防災マップづくり) R2.1.11 まち歩き R2.1.18 まち歩きの結果をとりまとめ、マップの作成 R2.4 連合会総会にて計画決定		・幅広い世代の住民の参加を促し、住民自らがまち歩きを行い、危険箇所や安全な場所をまとめる(防災マップ)など地域住民が主体となる取り組みを目指した。 ・防災マップには、危険箇所や安全な場所などを項目ごとに配色を変えた目印で表示し、イメージがしやすいように写真(過去の被災状況、避難場所)も付け加えた。			
					

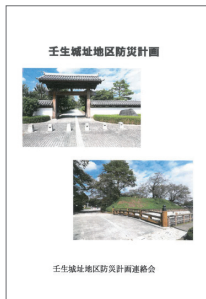
市町名	益子町	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	新町地区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	新町自治会	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	397世帯	資材備蓄		マップ	○
計画策定年月	令和元年12月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R元.9.28 基調講演「我が国はなぜ災害が多いのか」 R元.10.19 避難所運営ゲームHUG R元.11.2 災害図上訓練DIG まち歩き R元.11.23 地区防災計画の検討・策定		<ul style="list-style-type: none"> ・地域の特性に応じて、地域コミュニティの住民の意向を反映する形で作成した。 ・計画に合わせてマップを作製した。 ・非常持ち出し品・備蓄品等を記載した資料を作成した。 			

市町名	茂木町	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	深沢上	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	行政区	活動予定		避難	○
		防災訓練	○	避難所	
地区内の世帯数(策定時)	32世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和3年3月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.10.2 町担当者から行政区長に打診 R2.10.14 会議日程調整 R2.10.22 県、防災士会、市担当者の事前打ち合わせ R2.11.14 第1回会合(防災士会理事長による講演) R2.11.28 第2回会合(HUG訓練) R2.12.12 第3回会合(DIG訓練) R2.12.20 まち歩き・マップ作成 R3.1.23 第4回会合(計画策定に向けた意見交換) R3.2.15 計画策定 R3.3.14 自治会総会において、計画を全戸配布		<ul style="list-style-type: none"> ・策定の会合において、幅広い意見を取り入れるため、地元消防団部長に声をかけて参加していただいた。 ・区長は持ち回りとなっていることから、区長が変わった場合でも対応できるよう、内容を簡潔にすることを心掛けた。 			

市町名	市貝町	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	古宿下町地区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	古宿下町自治会自主防災会	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	約120世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和2年12月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.3.30	町担当者から自主防災組織へ打診、了承。今後の進め方についての検討	<ul style="list-style-type: none"> ・策定の会合において女性の意見を取り入れるため、積極的に女性に参加していただいた。 ・新型コロナウイルス感染症のため、自治会の役員が中心の参加となってしまったが、自治会の会議等で内容を周知した。 ・概要版を作製し、各家庭に掲示しやすいようポスター形式とした。 			
R2.5.22	県・防災士会・町との事前打ち合わせ				
R2.7.26	第1回計画策定推進会議(防災士会講演)				
R2.9.20	第2回計画策定推進会議(HUG訓練)				
R2.11.1	第3回計画策定推進会議(DIG訓練)				
R2.11.29	まち歩き・マップ作製				
R2.12.6	第4回計画策定推進会議(意見交換会) 意見交換会で出た意見を基に計画を策定。				

市町名	芳賀町	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	上給自治会	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	会長、副会長の下に4つの班とその班員で構成	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	128世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和3年1月	相互支援	○	その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.10.11	意識啓発のための基調講演	<ul style="list-style-type: none"> ・可能な限り多くの方の意見を反映できるよう配慮した(コロナ禍により中学生等の若年層は参加できなかった) ・事前の現地調査を入念に実施し、危険箇所等の漏れを可能な限りなくすよう留意した。 ・防災マップ作りに反映させるため、上給ウォーキングを11月1日(日)に実施の上、更に個別の追加の調査を行った。 ・時間的な制約の中で、どのレベルで妥協点を見出したらよいか悩んだ。 ・コンパクトにまとめるよう工夫した。 			
R2.10.18	防災ゲーム、課題抽出				
R2.10.24	災害図上訓練、課題の検討、防災活動体制、発災時・復旧復興時の活動、防災訓練、防災意識の啓発等の検討				
R2.11.1	防災マップづくり				
R2.11.7	地区防災計画の検討・策定				
R3.1	地区防災計画完成				

市町名	壬生町	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	壬生城址地区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	壬生城址地区(10自治会)	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	2,119世帯	資材備蓄		マップ	○
計画策定年月	令和3年7月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R元.7.11 地区防災計画についての説明会(第1回) R元.8.6 説明会(第2回)、参加自治会の承認 R元.8.6 県、防災士会、町担当者との打ち合わせ R元.8.28 説明会(第3回)、研修会の日程検討 R元.9.26 第1回研修会(防災士会理事長による講演) R元.11.28 第2回研修会(HUG訓練) R2.1.16 第3回研修会(DIG訓練) R2.2 まち歩き(各自治会) R2.2.6 第4回研修会(計画策定に向け検閲会) R2.2.27~5.24 地区防災計画策定会議(4回) R3.6 各自治会の承認を得る R3.7.13 各自治会へ地区防災計画のデータ配布、各自治会より各戸配布依頼		・県防災士会の支援で研修会を行い、参加者には毎回参加できる方をお願いした。 ・各自治会住民への周知は、地区防災計画のデータを各自治会に配布し、各自治会から各戸配布をお願いした。 ・各自治会代表者(自治会長)の考えで計画が進まない時期があった、個別に自治会長を訪問するなど、理解を得るのに時間がかかった。(令和2年度は、コロナの影響で会議開催できず。) ・計画に合わせて、簡易版を作成した。			

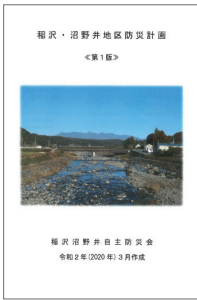


市町名	野木町	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	野木区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	野木区自主防災協議会(9自治会)で策定	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	589世帯	資材備蓄		マップ	○
計画策定年月	令和3年4月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.2 町担当者から協議会長に打診 R2.4 町担当者と協議会長とで進め方の検討 R2.5.18 県、防災士会、町担当者の事前打ち合わせ R2.9 協議会において参加募集 R2.10.10 第1回会合(防災士会会員による講演) R2.11.7 第2回会合(HUG訓練) R2.12.5 第3回会合(DIG訓練、防災マップ作り説明) R2.12.26 まち歩き R3.1 まち歩きの結果を協議会において取りまとめ、マップの作成 R3.1.29 第4回会合(地区防災計画の検討・策定)→計画案を作成 R3.3 協議会において計画決定 R3.4.1 計画書に基づき事業を実施予定		・幅広い意見を取り入れるため、地域内の女性や消防団に声をかけて参加していただいた。また、別の地域の自主防災組織の役員にも参加をしていただき、活動の参考にしていただいた。 ・災害時要援護者対策として、支援リストや支援シートを作成し、具体的な対応を記載した。 ・地域の方々に自分たちで行うという意識を持っていただくため、計画の検討段階では行政は参加せず、完成したものの最終チェックのみ行った。			

市町名	塩谷町	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	芦場新田	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	芦場新田区自主防災組織	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	73世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和2年3月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
H30 自主防災組織設立 H30 防災資機材購入 R元.6.30 普通救命講習会 R元.12.15 塩谷町防災総合訓練参加 R元.12.15 県防災土理事長による講話 R元.12.15 HUG訓練 R2.2.16 DIG訓練、まち歩き R2.2.16 防災マップ作成 R2.3.1 防災計画検討、策定		<ul style="list-style-type: none"> ・防災マップ作成と併せて土砂災害や浸水箇所等危険箇所を洗い出しを行った。 ・避難時の要支援者及び支援者(車運転者)を定めた。 ・防災講話、訓練等を通して事前に災害に備えることの重要性について、再度理解を得るようにした。 ・訓練や策定会議は、なるべく区の行事に併せて行うことにして、住民の負担を減らした。 			



市町名	高根沢町	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	太田地区	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	太田自主防災会単独で策定	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	125世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和3年3月	相互支援	○	その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.6 町担当者から自主防災会長に打診 R2.7 町担当者と会長とで今後の進め方の検討 R2.7.29 県、防災士会、町担当者の事前打ち合わせ R2.8 自治会住民への参加周知 R2.9.26 第1回会合(防災士会理事長による講演) R2.10.11 第2回会合(HUG訓練) R2.11.8 第3回会合(DIG訓練)、まち歩き R2.11.25 まち歩きの結果を町担当者・太田地区役員でとりまとめ、マップの作成 R2.11.25 第4回会合(計画策定に向けた意見交換) R3.1.16 太田地区役員が集まり計画案を作成 R3.3 総会にて計画決定 R3.3 計画を回覧板で周知、各戸に配布		<ul style="list-style-type: none"> ・町内在住防災士に積極的に参加してもらい、知識を出してもらおうと共に計画策定のノウハウの共有を図った。 ・防災マップで危険箇所を調べる際に、通学路を確認するために子ども会にも参加していただいた。 ・地区が既に作成していた自主防災会独自の防災計画を下地として利用することでスムーズに作成できた。 ・防災マップを作成する際に、地区が広く、川の氾濫を想定すると避難方法が変わるため、一枚の地図に落とし込むことが困難だった。 			

市町名	那須町	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	稲沢沼野井自主防災会	活動目標		要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	自治会(稲沢、沼野井)	活動予定		避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	140世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和2年3月	相互支援		その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R元.6.21 県、町、防災士会、自治会で打合せ R元.6.29 防災士会理事長による防災講演会 R元.7.30 第1回会合(防災士会理事長による講演会) R元.9.18 第2回会合(HUG訓練) R元.11.6 第3回会合(DIG訓練) R元.11.17 防災マップ作り検討会(防災まち歩き) R元.12.18 第4回会合(計画策定に向けた検討会) R2.2.10 計画(案)、マップ(案)の検討、策定		<ul style="list-style-type: none"> ・計画策定にあたり、消防団や管内の中学生にも参加してもらい、幅広い意見を取り入れた。 ・平成10年に被災した余笹川沿いを実際に歩き、危険個所の確認を行った。 ・先例自治体の計画を参考に作成した。 ・計画に合わせて、町ハザードマップをもとに地区防災マップを作成した。 			
					

市町名	那珂川町	計画の内容			
		基本方針	○	組織・体制	○
モデル地区名	室町	活動目標	○	要配慮者	○
地区内の自主防災組織の構成	室町行政区、地元消防団、地元消防団のOB会	活動予定	○	避難	○
		防災訓練	○	避難所	○
地区内の世帯数(策定時)	98世帯	資材備蓄	○	マップ	○
計画策定年月	令和3年2月	相互支援	○	その他	
計画策定の経緯(時系列)		ポイント、工夫した点、苦労した点			
R2.9.8 地区防災計画策定事前打ち合わせ R2.10.19 第1回地区防災計画策定会議(防災士会による講話) R2.10.29 第2回地区防災計画策定会議(HUG訓練) R2.11.9 第3回地区防災計画策定会議(DIG訓練) R2.11.28 第4回地区防災計画策定会議(防災まち歩き) R2.12.5 第5回地区防災計画策定会議(素案の提出と策定に向けた検討会) R3.2 地区防災計画策定		<ul style="list-style-type: none"> ・行政区内の様々な人の意見を頂くため、行政区内の回覧板で日程を周知しだれでも参加可能にした。 ・計画をどのように形にしていくかが苦労した。 ・文字を大きく読みやすく作ったが、文字数が多くなってしまったのでっと簡略化すべきだった。 			
					



みんなが主役! 地区防災計画策定マニュアル

編集発行：栃木県県民生活部消防防災課

〒320-8501 宇都宮市埜田 1-1-20

TEL:028-623-2127 FAX:028-623-2146

<https://www.pref.tochigi.lg.jp/c02/index.html>

令和4 (2022)年2月